

プレスリリース 2009年9月



MOT **KCI**
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO OF ART
東京都現代美術館
The Kyoto Costume Institute
www.mot-art-museum.jp

展覧会概要

ラグジュアリー：ファッションの欲望

Luxury in fashion Reconsidered

「ラグジュアリー」は日本語で「贅沢」と訳されるように、視覚的な豪華さ、そしてそれを身体にまとったときの特別な感覚、洗練をきわめるといふ精神的な満足感など、余剰から生み出された豊かさを意味してきました。

現在、私たちは、産業の発展によって物質的に恵まれた生活を送ることができるようになりました。一方でそのために引き起こされるグローバルな諸問題の解決に取り組まなければならない状況にあります。そうした中で、私たちが求める豊かさの現れである「ラグジュアリー」に対する考え方も大きく変化しつつあります。

本展は、社会の動きや私たちの欲望を何よりも敏感に反映しているファッションを通じ、「ラグジュアリー」という視座から時代や社会の価値観の変遷を再考するものです。視覚的にラグジュアリーで贅沢な表現から、より個人的で知的な遊びにも近いラグジュアリーまで、京都服飾文化研究財団（KCI）のコレクションから多角的な視点で精選した17世紀から現代までの作品約100点を展示します。

タイトル： ラグジュアリー：ファッションの欲望
会期： 2009年10月31日（土）～ 2010年1月17日（日）

休館日： 月曜日（ただし11/23、1/11は開館・翌日休館）、12/28～1/1
開館時間： 10:00～18:00（入場は閉館の30分前まで）
会場： 東京都現代美術館 企画展示室B2階
〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1

お問い合わせ： TEL.03-5245-4111（代表） / 03-5777-8600（ハローダイヤル）
主催： 財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 / 公益財団法人 京都服飾文化研究財団
企画制作協力： 京都国立近代美術館
後援： 文化庁 / 経済産業省 / 社団法人企業メセナ協議会
特別協力： 株式会社ワコール
協力： このえ株式会社（メゾン マルタン マルジェラ） / ミキモト / ソニー株式会社 / 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント / 株式会社七彩 / 吉忠マネキン株式会社

観覧料： 一般 1,200円（960円） / 大学・専門学校生 900円（720円） / 65歳以上 800円（640円） / 中高生 600円（480円） / 小学生以下 無料 ※（ ）内は20名様以上の団体料金
※本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。
※同時開催の「レベッカ・ホルン展」との共通券もございます：
一般 1,800円 / 大学・専門学校生 1,500円 / 65歳以上 1,400円 / 中高生 1,000円

交通案内：
・東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分
・都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
・東京メトロ東西線・木場駅3番出口より徒歩15分、又は都営バス（業10）
「業平橋駅前」行き、（東20）「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車
・都営地下鉄新宿線・菊川駅A4番出口より徒歩15分、又は都営バス（業10）
「新橋」行き、（東20）「東京駅丸の内北口」行きで「東京都現代美術館前」下車
・JR東京駅丸の内北口2番乗り場より、都営バス（東20）「錦糸町駅前」行きで
「東京都現代美術館前」下車
・首都高速「木場」又は「枝川」出口利用

展覧会カタログ： 「ラグジュアリー：ファッションの欲望」
公益財団法人 京都服飾文化研究財団 発行 価格：2,500円（税込）、日英テキスト、207ページ
同時開催： 「レベッカ・ホルン展」2009年10月31日（土）～ 2010年2月14日（日）
「MOT×Bloomberg PUBLIC 'SPACE' PROJECT」2009年8月1日（土）～ 2010年1月17日（日）
「スウェーディッシュ・ファッション」2009年10月31日（土）～ 2010年1月17日（日）
「MOTコレクション」2009年10月31日（土）～ 2010年1月24日（日）

着飾るということは自分の力を示すこと **Ostentation**

「着飾るということは自分の力を示すこと」と、パスカルは言っています。かつてから着ることの目的の一つは着る人の富や権力を誇示することでした。高価で希少な品で自らを過剰に飾り立てる行為は、人間の変わることない欲求といえます。一方で、この飽くなき情熱こそが職人を育て、芸術や産業を発展させていったことも歴史的な事実です。

金糸や銀糸をふんだんに用いたきらびやかな衣装や多くの人の時間と手のわざを費やして作られた豪華なテキスタイルのドレスなど、〈見せること=顕示〉をテーマとした服を中心に展示します。

主な出展作品：

エリザベス一世にまつわるボディス(17世紀)、ローブ・ア・ラ・フランセーズ(18世紀)、ウォルトのレセプション・ドレス(1900年頃)、
仮装用衣装：ポール・ボワレのドレス「千一夜」パーティ用(1910年代)、ウォルト、シャネルのドレス、靴のヒール(1920年代)、
スクャパレリ、クリスチャン・ディオール(1940～50年代)、ロイ・リキテンシュタイン、ピエール・カルダン、クレージュ、イヴ・サン
ローラン (1960年代)、ティエリー・ミュグレー、シャネル(カール・ラガーフェルド)(1980～90年代)、ヴィクター&ロルフ、バレン
シアガ(ニコラ・ガスキエール)、ルイ・ヴィトン(マーク・ジェイコブス)(2000年～)

「プレイステーション 3」の高画質画像拡大技術による、出展作品中15点の高精細画像の展示 (P. 5参照)

削ぎ落とすことは飾ること **Less is more**

華やかな装飾が好まれる一方で、近代は行き過ぎた豪華さを避け、シンプルで日常的なスタイルを望む方向へ向いました。とりわけ快適さや機能性がデザインに強く求められている現代において、その傾向は顕著です。それを可能にするのはデザインの造形性、素材に対するこだわりや簡素でありながらも衣服を美しく見せる高い技術力の存在です。

シャネルの機能的なアンサンブルやバレンシアガの構築的なドレスなど、削ぎ落としたデザインの中に上質さと精緻な職人技が凝縮したオートクチュールの作品を中心に構成します。

主な出展作品：

ポール・ボワレ(1910～20年代)、マドレーヌ・ヴィオネ、シャネル(1920～30年代)、グレ、ディオール、バレンシアガ、クレージュ
(1940～60年代)、イヴ・サンローラン、イッセイ・ミヤケ(1980～90年代)、ランバン(アルペール・エルバス)(2000年～)

冒険する精神 **Clothes are free-spirited**

東京文化発信プロジェクト ラグジュアリー：ファッションの欲望 特別展示

妹島和世による空間デザイン / コム・デ・ギャルソン

ラグジュアリーであることは物質的、金銭的なものだけにとどまりません。「今までにない服」の制作に挑戦する作り手。そのような服に出会い、作り手が込めた情熱を受け止めようと努力する着用者。両者の間に生まれる〈着る〉ことをめぐる濃密な体験もまた、精神的なラグジュアリーであるといえるでしょう。

ファッションにおける〈美〉や〈洗練〉の価値転換を図ったデザイナー、川久保玲の作品を通じて、衣服の創造性とラグジュアリーの関係性を考察します。

場所や利用者との関係性を建築プログラムとしてとり入れ、新たなスタイルを確立した革新的なクリエイター、妹島和世が空間デザインをおこなう特別展示としてご覧いただけます。(P. 4参照)

主な出展作品：

コム・デ・ギャルソン(川久保玲)(1980年代～)、写真家畠山直哉による、出展作品の等倍平面写真

ひとつだけの服 **Uniqueness**

希少なものは付加価値がつくことは誰しも認めます。ただ、何が希少かの判断は人によって大きく変わります。たとえいつも目にするものでも、ひとつだけ違う文脈に置かれれば世界にひとつだけの価値ある「unique」なものになりえるのです。これは、大量消費型社会からの転換を目指している現在において非常に有効な考えではないでしょうか。

「一点もの」「リサイクル志向」「ハンドメイド」といった現在のラグジュアリーに結びつくメゾン・マルタン・マルジェラの作品を展示します。

主な出展作品：

メゾン・マルタン・マルジェラによるアーティザナル・ライン(1990年代～)



東京文化発信プロジェクト
東京から生まれる新しい文化の波



日本だから、できる。
あたらしいオリンピック!

東京都

東京文化発信プロジェクト
ラグジュアリー：ファッションの欲望 特別展示
妹島和世による空間デザイン / コム・デ・ギャルソン

かつてないものを創り続けるという川久保玲（コム・デ・ギャルソン）の「冒険する精神」は、それを着る人に知的な刺激や充足感を与えてくれます。それは、現代における「ラグジュアリー」の一つの形といえるでしょう。

「ラグジュアリー：ファッションの欲望」展の特別展示は、京都服飾文化研究財団（KCI）のコレクションより選んだコム・デ・ギャルソンのアヴァンギャルドなスピリッツに満ちた服約30点を、建築家、妹島和世デザインによる空間に展示します。

ルーブル・ランス（フランス）や金沢21世紀美術館など、場所や利用者との関係性を新鮮な目でよみこんだ建築プログラムとミニマルで透明な質感と形により、革新的なスタイルを確立したクリエイター、妹島和世。妹島の新解釈による空間の中で、コム・デ・ギャルソンの革新性はより輝きを増します。透明で多様なボリュームの空間が重なり合ったためくるめく遠近感のイリュージョンの交錯、観客の身体と服の関係を変容させる空間が出現します。



参考画像：
オカムラデザインスペースR
透明なかたち
妹島和世
Photograph : Kenshu Shintsubo

会期：2009年10月31日（土）～ 2010年1月17日（日）

休館日：月曜日（ただし11/23、1/11は開館・翌日休館）12/28～1/1

開館時間：10:00～18:00（入場は閉館の30分前まで）

会場：東京都現代美術館 企画展示室アトリウム

主催：東京都 / 東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室（財団法人東京都歴史文化財団）
/ 公益財団法人 京都服飾文化研究財団

観覧料：無料

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京文化発信プロジェクトに参加し、東京の文化を体験・創造してみませんか。

東京文化発信プロジェクトに関するお問合せ・取材のお申込み：

東京文化発信プロジェクト室事業推進課 宮永 / 大石 info@bh-project.jp

Tel: 03-5638-8800 Fax: 03-5638-8811

展覧会に関するお問合せ：

東京都現代美術館 事業企画課企画係広報班 吉川 m-yoshikawa@mot-art.jp / 野口 r-noguchi@mot-art.jp

江東区三好4-1-1 Tel.03-5245-1134（直通）Fax.03-5245-1141

関連プログラム

*各プログラムの詳細につきましてはお問い合わせ頂くか、東京都現代美術館公式HPをご覧ください。

●MOT美術館講座

「ラグジュアリー：ファッションの欲望」展に関連した連続講座。レクチャー以外にもワークショップやパフォーマンスなど、ファッションを幅広く捉え、展覧会を多角的な切り口で考察します。
※MOT美術館講座は、現代美術をより深く学び/楽しむためのレクチャーシリーズです。

「哲学とファッション」(仮)
哲学的な視点からファッションを考察します。
講師： 鷺田清一 (哲学者、大阪大学総長)
日時： 11月21日(土) 15:30～17:00
場所： 東京都現代美術館 地下2階 講堂 (定員200名)
参加費： 無料

「妹島和世によるワークショップ」
建築家・妹島和世氏と一っしょに、親子で楽しむワークショップです。
企画・講師： 妹島和世 (建築家)
日時： 11月22日(日)
参加費： 無料・事前申込制 ※詳細については美術館までお問い合わせください。

「RAP-韻訳ロミオとジュリエット」
シェイクスピアの傑作「ロミオとジュリエット」をラップで表現します。
日時： 2010年1月11日(月・祝) 13:30、15:30の2回公演
場所： 東京都現代美術館講堂 定員各200名 参加無料
出演： 長澄 (ラップ・パフォーマー)

●エデュケーション・プログラム

「先生のための特別研修会」
日時： 11月13日(金) 16:00～18:00
対象： 小・中・高等学校の教員 30名
参加費： 無料・事前申込制 (先着順) ※詳細については美術館までお問い合わせください。

「ミュージアムスクール」(学校向け鑑賞教室)
日程： 11月、12月の毎週火・木曜日
対象： 小・中・高等学校
2週間前までに申し込み(先着順)

「親子で楽しむギャラリー・クルーズ」
日時： 12月19日(土)、20日(日) 13:00～15:00
対象： 小学校1～3年生とその保護者 各日20組
参加費： 無料・事前申込制 ※詳細については美術館までお問い合わせください。

●大学・専門学校生向けレクチャー

京都服飾文化研究財団(KCI)の学芸員が展覧会の概要と代表的な作品についての解説をおこないます。
対象： 大学、専門学校等
事前申込制 ※詳細についてはKCIにお問い合わせください。
申込・問合せ先： 京都服飾文化研究財団 事務局 Tel.075-321-9221

■東京文化発信プロジェクト 特別展示 イベント

「contact Gonzolによるパフォーマンス」
リアルな身体性を追求し、体をぶつけ合う即興的パフォーマンスを行います。
日時： 11月23日(月・祝) 15:00～(30分程度)
場所： エントランスホール
参加費： 無料 ※詳細については美術館までお問い合わせください。

「プレイステーション 3」による展示について
本展では、展示作品の高解像度画像データ15点を、家庭用ゲーム機「プレイステーション 3」向けに株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントが開発した高画質画像拡大技術を活用し、ソニーの47インチパブリックディスプレイにて、ハイビジョン画質で自在にズームイン・アウトしてご覧いただけます。15点は、本展の中でもとりわけ高価な織物や密度の濃い装飾が施された作品が並ぶ、セクション1「着飾るといことは自分の力を示すこと」から選り抜きました。エリザベス一世に献上されたと伝わる豪華な刺繍のボディスや、華麗なロココ文化が生んだローブ・ア・ラ・フランセーズの壮麗な絹織物など、通常は会場でご覧いただくことが難しい、魅力的なディテールをご覧いただけます。
*高画質画像拡大技術は、本展覧会用に参考出展される技術です。現在発売されている「プレイステーション 3」には、この機能は搭載されていません。

広報用素材



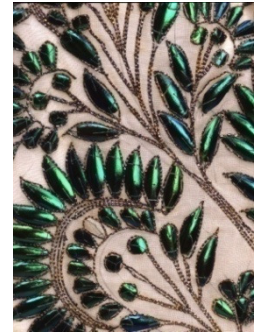
① ドレス
(ローブ・ア・ラ・フランセーズ 部分)
18世紀前半 イタリア
京都服飾文化研究財団所蔵、広川泰士撮影



② ヒール フランス 1925年頃
京都服飾文化研究財団所蔵、
広川泰士撮影



③ インド? イブニング・ドレス、
ショール 1850年頃
京都服飾文化研究財団所蔵、畠山崇撮影



④ インド? イブニング・ドレス
(部分) 1850年頃
京都服飾文化研究財団所蔵、畠山崇撮影



⑤ ロイ・リキテンシュタイン
(テキスタイル・デザイン)
リー・ルド・シン普森 (ドレス・デザイン)
ドレス 1965年頃
京都服飾文化研究財団所蔵、畠山崇撮影



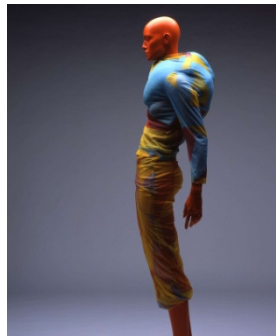
⑥ クリスチャン・ディオール ドレス
1952年秋冬 京都服飾文化研究財団所蔵、
畠山崇撮影



⑦ バレンシアガ デイ・アンサンブル
1960年頃 京都服飾文化研究財団所蔵、
畠山崇撮影



⑧ コム・デ・ギャルソン (川久保玲)
ドレス 1992年秋冬
京都服飾文化研究財団所蔵、
広川泰士撮影



⑨ コム・デ・ギャルソン (川久保玲)
ドレス 1997年春夏
京都服飾文化研究財団所蔵、
畠山崇撮影



⑩ コム・デ・ギャルソン (川久保玲)
ドレス 1991年秋冬
京都服飾文化研究財団所蔵 株式会社
コム・デ・ギャルソン寄贈、畠山崇撮影



⑪ メゾン・マルタン・マルジェラ
ウエストコート 1989年秋冬
© Maison Martin Margiela,
Photo by Marina Faust, Paris



⑫ メゾン・マルタン・マルジェラ
ジャケット 2006年春夏
© Maison Martin Margiela
Photo by Marina Faust, Paris



⑬ メゾン・マルタン・マルジェラ
ドレス 2008年秋冬
© Maison Martin Margiela
Photo by Marina Faust, Paris



⑭ メゾン・マルタン・マルジェラ
チュニック 2009年春夏
© Maison Martin Margiela
Photo by Jacques Habbah, Paris

